

タイトル

離乳期における水分摂取のための食具の検討－食具別の口腔機能の観察－

石丸あき¹⁾、斉藤哲¹⁾、大岡貴史²⁾、向井美恵²⁾

ビジョン株式会社 中央研究所¹⁾、昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学口腔衛生学部門²⁾

【目的】

出生直後から開始する哺乳期における乳児の栄養摂取は、母親乳首や人工乳首から、口唇を開いて捉え、舌を使って吸引と圧出を繰り返す哺乳動作が中心課題となる。一方、離乳期に入ると、哺乳反射が消失し始め、歯が生えることで哺乳動作が阻害され、その後は乳首からの液体物の取り込みが難しくなることが言われている。そのため離乳期には、乳首からの取り込みと併用して、成人の主な水分摂取方法であるコップからの取り込みを練習するが、一方で、こぼさずに飲む、外出時に持ち運べる等、保護者の利便性が優先されるストローを選択する母親も多く、離乳期における乳児の水分摂取方法は多様である。本研究では、離乳期における多様な水分摂取方法の初使用の様子に着目し、各方法における水分取り込み時の、児の口腔機能の相違点について検討した。

【方法】

対象はP社モニター制度に登録しており、離乳が開始され、直母もしくは哺乳びん授乳をしており、水分摂取のためにスプーン、コップ、ストローを未使用の児2名（6ヶ月2週、男児、観察時体重7.2kg/8ヶ月0週、女児、6.4kg）。母親の同意を得た上で、哺乳びん授乳、初めてスプーン、コップ、ストローから水分摂取をしている外観側面のビデオ記録を行なった。ビデオ映像から、口唇機能、舌運動機能、下顎運動機能について評価をした。

【結果】口唇機能：スプーンでは、上唇を水面につけ、口唇ではさむことができた。コップでは、上唇が動かず、口唇ではさむことができなかった。ストローでは、構造上、水面に触れることはなく、口唇ではさんでいた。舌運動機能：人工乳首では、顎下部の動きから舌の波動運動の様子が観察された。下顎運動機能：スプーンでは、下顎はほぼ安定されていたが、コップでは、不安定に上下に動くことが顕著であった。

【考察】哺乳動作での水分の取り込みが中心である離乳初期において、水分取り込み時にスプーンを使用した場合、成人のコップ飲みに必要な口唇機能、下顎運動機能は出現してきているものの、コップの場合、哺乳と同様に口唇を開き下顎を動かす様子が観察され、まだ機能が活用しきれていないことが示唆された。ストローの場合、口唇機能や下顎運動機能は活用するが、口唇が水面に触れる機会がないこと、ストローを固有口腔まで挿入して哺乳動作が見られたことから、コップ飲みに必要な機能とは別個の動作にて水分摂取を行う可能性が示唆された。